



SOLUTIONS

概要

技術的課題：

現状のSAN環境は、ベンダーの壁によってバックアップや管理の完全な統合が困難な状態になっている。ユーザーがSAN本来のメリットを享受するためには、そうしたSANアイランドの統合が求められている

ソリューション：

Brocade SilkWorm Multiprotocol Routerにより、異なる多様な環境のSANアイランドを結び、あらゆるプラットフォームに対応したベリタスソフトウェアのソフトウェア製品群によって統合を実現する

成果：

- ・ベリタスソフトウェアのバックアップソフトであるVERITAS NetBackupによって、ベンダー非依存のバックアップ統合が可能になった
- ・ベリタスソフトウェアから2005年初にリリースが予定されている次世代ストレージ管理ソフト、VERITAS Storage Foundation For Networkによって、SANファブリックのインテリジェント化が可能になる
- ・ストレージ業界で中立的な立場の両社が共同することで、ベンダー非依存のSANソリューションが実現する

ストレージ管理やバックアップなど、ストレージ関連ソフトウェアのリーディングカンパニーであるベリタスソフトウェア株式会社は、Brocadeが2004年7月に販売を開始したBrocade SilkWorm Multiprotocol Routerに同社のソフトウェアを組み合わせ、SANアイランド統合ソリューションの開発を進めています。すでにマルチベンダー環境で複雑化したバックアップの統合が可能になり、近い将来にはインテリジェントなSANファブリック管理を実現できる見通しです。ストレージ業界の中でも中立的な立場であるベリタスソフトウェアとプロケード コミュニケーションズ システムズでは、ベンダーに依存しないSANファブリック構築のため、今後も共同で開発を進めていきます。

Brocade SilkWorm Multiprotocol Routerによる ファブリック仮想化の共同ソリューションを展開

ストレージ関連製品を提供する業界各社の中で、ベリタスソフトウェアはあらゆるプラットフォームに対応するストレージ関連ソフトウェアを提供することで、中立的な立場を確立しています。SANファブリックを構成するスイッチなどを提供するプロケード コミュニケーションズ システムズも、同じく中立的な立場です。異なるアプローチを持った両社ですが、ストレージ市場の中で同じユーザー、同じパートナーを相手にビジネスを展開しており、ワールドワイドでも日本でも、共同でSANの普及や高度な活用に関して提案してきました。

Brocade SilkWorm Multiprotocol Routerを用いたバックアップ統合

現在、SANはストレージのベンダーやサーバーのプラットフォームに依存した状態になっているというのが実情です。ベリタスソフトウェア 技術本部 プロダクトマネジメント部 プロダクト担当の蔵園修一氏は、その課題を次のように語っています。

「本来なら、SANはストレージ資源を共有するためのインフラです。ところが実際には、プラットフォームごとに島を作って固まっているような状態にあります。管理はおろか、

バックアップサーバーを一つにまとめることさえ難しいのです。これでは情報が分散して存在することになり、バックアップや管理には手間もコストもかかってしまい、全社的な情報の管理が上手に行えません」

2004年7月、そのSANアイランドを相互に接続できるBrocade SilkWorm Multiprotocol Routerが日本でも発売されました。ファイバーチャネル（FC）に加え、iSCSIやFC-IPに対応していることから、遠隔地であってもIP経由でSANを接続することが可能になっています。ベリタスソフトウェアは、バックアップソフトウェアのVERITAS NetBackupをいち早くSilkWorm Multiprotocol Routerに対応させ、バックアップ統合ソリューションを実現しています。

VERITAS NetBackupはベンダー非依存のソフトウェアですから、AIXのボリュームにSolarisでアクセスする、といったことも可能です。ベンダー非依存のルーティング機能を持ったSilkWorm Multiprotocol Routerで既存のSANアイランドにバックアップ用SANを結び、同じくベンダー非依存のVERITAS NetBackupによってテープライブラリやバックアップ用ディスクアレイを共有することができるのです。この方法はバックアップ

VERITAS™

BROCADE

だけでなく、環境を移行する際にも役立ちます。SilkWorm Multiprotocol Routerは、遠隔サイトへのバックアップを後から追加する際など、既存の複雑な環境にできるだけ手を入れず、複数のSANアイランドを接続できます。また、SANアイランドを接続した際、遠隔サイトで障害が発生してもローカルに波及させないなど、不安定なWAN経由でSANを接続した場合などに発生しがちな障害を局所化できるようになっています。

「SilkWorm Multiprotocol RouterとVERITAS NetBackupとで、互いに補完し合うソリューションとなっています。中立的な立場であるベリタスとプロケードの両社だからこそ、このようにしてベンダーの壁を崩すことができると言えるでしょう。ベンダーのしがらみのないソリューションを、われわれが推進していきます」（蔵園氏）

ファブリックベースの「真の仮想化」を実現する
VERITAS Storage Foundationも登場

「FCやiSCSIなどといったプロトコルの違いを吸収してくれるルーティング機能を持ったデバイスが登場したことで、さらに先のファブリック仮想化への道筋ができました」と蔵園氏は続けます。

これまで、ストレージ関連のベンダーの多くが仮想化を提唱してきましたが、実際にはベ

ンダー自身による仮想化はベンダーの壁によって困難なものとなっていたのです。ベリタスソフトウェアは、それらを一つひとつインテリジェント化していくことで、ベンダー非依存の仮想化を進めてきました。また、SilkWorm Multiprotocol Routerは、ベリタスソフトウェアが追求するファブリック構成要素のインテリジェント化にも対応しています。2005年初には、ベリタスソフトウェアからネットワークベースのストレージ管理ソフト、VERITAS Storage Foundation For Networkが登場する予定です。ストレージの仮想化は、現状ではサーバーベースにとどまっていますが、SilkWorm Multiprotocol RouterとVERITAS Storage Foundation For Networkを組み合わせることによってファブリックベースの仮想化が実現するのです。この組み合わせは、きちんとしたポリシーを持ってストレージ環境を一元化するDLM (Data Lifecycle Management) の考えを、ファブリック全体に及ぼせることができます。バックアップが容易になるだけでなく、管理コストの低減やセキュリティ向上などのメリットも期待されています。

「ストレージの全てを共有し、最適化を図れるようにすることはベリタスの使命です」と蔵園氏は言います。「複雑化する一方のストレージ環境を柔軟に管理するためには、特定デバイスの機能によってではなく、ファブリック構成要素すべてをインテリジェント化する必要があります。ですから、ストレージの

ユーティリティ化を妨げるデバイスがあったら、それにインテリジェンスを持たせるソフトを作っていきます。SilkWorm Multiprotocol Routerと、VERITAS Storage Foundation For Networkを組み合わせることで、ファブリックベースの仮想化が実現します」

そしてそれは、両社の思惑が一致した部分でもあります。SilkWorm Multiprotocol Routerは、分散して管理が困難となったSANアイランドを論理的に統合し、共通のネットワーク基盤を構成します。そしてVERITAS NetBackupがデータのバックアップやマイグレーションなどを実現し、VERITAS Storage Foundation For Networkでファブリック全体が仮想化されます。ベリタスソフトウェアは、それをさらに突き進め、ストレージにおけるユーティリティ・コンピューティングを実現していこうとしています。プロケード コミュニケーションズ システムズも、その実現と一緒に取り組んでいきます。

蔵園氏は言います。「VERITAS Storage Foundationは今後も、ユーティリティ・コンピューティングに向けて進化していきます。同時にユーザーのニーズも進んでいくことでしょう。その頃には、プロケードと共同で、互いに補完し合う形のソリューション、そしてビジネスを展開するようになっていくと考えています。2年後くらいには、そういう時代が来るかもしれません。期待してください」

